

カツオの流通システムを変革する水産基盤整備

○宮城県気仙沼漁港の例

【主な課題】

- ・ マグロ延縄漁船とカツオ一本釣漁船が混在し、待機と水揚げに多くの時間が必要で、1日の水揚量は約300トンが限界
- ・ 取扱量が増えず販路も固定化
 - ⇒ マグロ延縄漁船とカツオ一本釣漁船の水揚げの効率化
 - ⇒ 生鮮カツオの取扱量の拡大と新たな販路の開拓

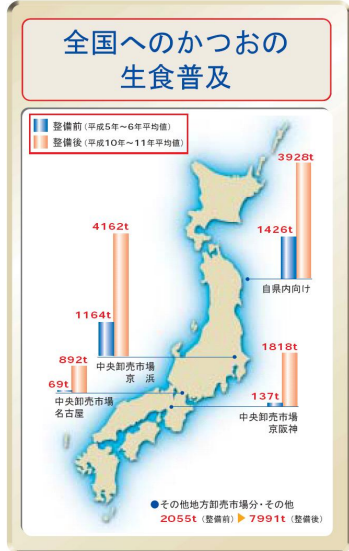
【事業・取り組み】

- ・ 漁港の水揚げ機能の向上
 - 気仙沼漁港修築事業 (S63~H13)
 - (陸揚岸壁、用地、道路等の整備)
- ・ 安全安心な水産物供給体制の構築のための衛生管理対策
 - 気仙沼地区特定漁港漁場整備事業 (H14~23)
 - (人工地盤、漁港浄化施設等の整備)

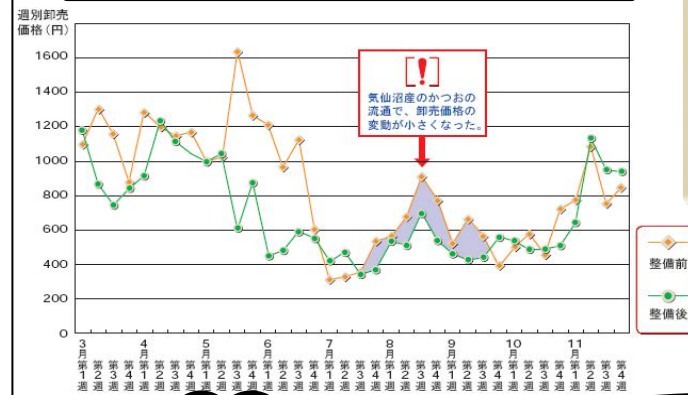
【事業効果】

- 水揚げ～出荷までの所要時間が、2～3時間短縮
- 1日当たりの水揚げ可能量が倍増
 - 約300トン ⇒ 約600トン
- カツオ全出荷量に占める生鮮向けカツオの比率が増大
 - 生鮮向けカツオ 17% ⇒ 57%
- 関西圏への生鮮カツオの出荷が実現
 - 出荷所用時間の短縮により、大阪を始めとする西日本市場へ、気仙沼産生鮮カツオの出荷が大幅に増加
 - ☆消費地での価格安定と購入量の増加
 - 築地市場の8～10月の生鮮カツオの多くは気仙沼産。
 - この時期に気仙沼からカツオが安定的に供給されるようになり、卸売価格の安定に貢献
 - また、東京区部のカツオ購入量も大きく伸びる

☆生鮮カツオの出荷増☆
☆関西圏へのカツオ供給が実現☆



築地市場における生鮮カツオの週別卸売価格の推移

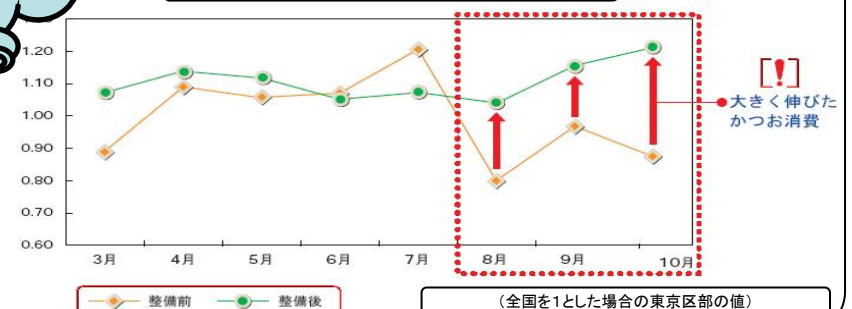


消費地市場の価格安定

8月から10月に築地市場で扱う生鮮カツオの多くが気仙沼産！

東京区部の1人当たりのカツオ購入量UP

東京都の1人当たりのカツオ購入量の変化



(全国を1とした場合の東京区部の値)